

永田町新潮流 平沢勝栄

俺がやらねば



最近、東京都の小池百合子知事に関する本が書店に平積みされている。過去の言動をもとに「小池氏が都知事にもさわしいか否か」を問うたものである。

私は、政治評論家の竹村健一氏の紹介で三十数年前に小池氏に会った。以来、今日まで小池氏の活動を見てきたが、いろいろな意味で「すごい人」だと思う。ここでは良い例のみ紹介したい。

別扱いで出国させないよう、あなたから外相に頼んでよ」と言ってきた。この情報は真偽不明だったが、事実なら大変なことなので、とりあえず外相に電話してみた。

すると、「その情報、どこで聞いたのよ。(弾道ミサイルの)テポドンが飛んできたらどうするのよ」などと言ってきた。取り付く島もなかった。

小池都知事の情報網の広さには驚いた。後で、大型連休の谷間に起こったことは不幸だった。一部の関係者で対処方針が決められ、当時、官房副長官だった安倍晋三氏には発



安倍首相は職務続行に強い意欲を見せている—19日、官邸

言権がほとんどなかったことも痛かった。結局、数日後に日本政府は正男氏をVIP待遇で、本人が希望する中国・北京に丁重に送り届けている。「小泉訪朝」の1年以上も前の話だ。それにしても、当時、保守党だった小池氏は、この情報をどこから入手したのだろうか。

今年初めから、安倍首相は新型コロナウイルスの問題などで激務が続いている。その激務ぶりには諸外国の首脳らと比較すれば、一目瞭然である。日本では不眠不休で働くリーダーが評価されがちである。しかし、リーダーは、最後は明晰(めいせい)な頭脳で間違いのない決断を下さなければならぬ。

そのためには十分な休養をとり、体調を整えておくことが必須だといえる。安倍首相は堂々と長期休暇を取るべきだ。それは首相個人のためではない。国家、国民のためである。

安倍首相は国家、国民のために堂々と長期休暇を

(自民党衆院議員)